

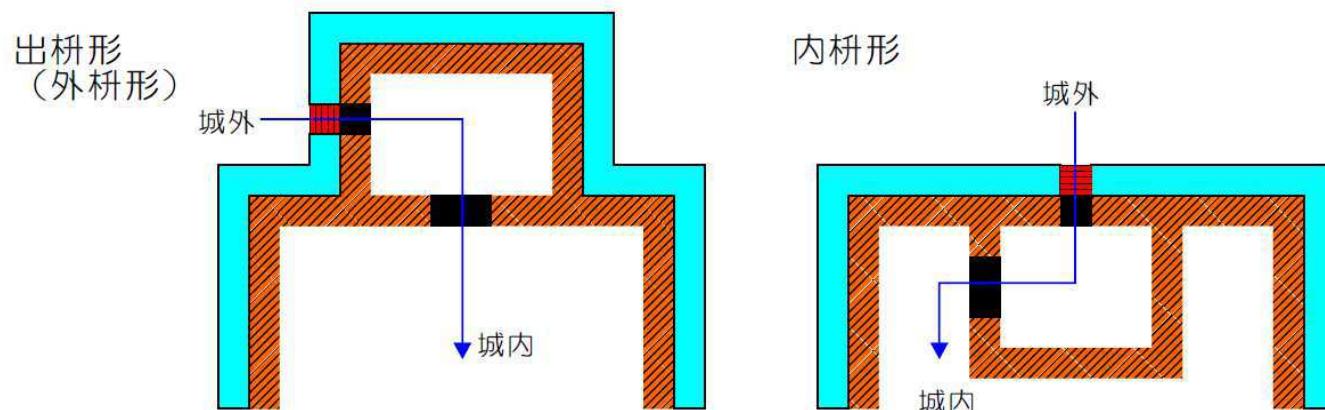
犬山城大手門枠形について

1. 大手門とは？

「大手」とは、城の正面のことであり、「大手門」とは城の正面側の玄関となる門のことです。多くの城では、街道や城下町に通じる場所に設けられています。

2. 枠形とは？

城の出入口を虎口といい、塀をめぐらせた土塁や石垣で区切った四角い空間に二つの門を配した虎口を枠形虎口といいます。枠形虎口のうち、曲輪の内側につくられた枠形を内枠形、曲輪から突出してつくられた枠形を外枠形（出枠形）といいます。



枠形のイメージ

出典：加納城跡発掘調査現場公開資料（岐阜市教育委員会、（財）岐阜市教育文化振興事業団 2008）

枠形の外側と内側に門を配置し、通常は外側の門を一ノ門、内側の門を二ノ門と呼びますが、城によって逆の場合も多くあります。外側の門を高麗門、内側の門を櫓門とする場合が多いようです。

※高麗門・・・門の上部全体を切妻屋根で覆う薬医門と異なり、切妻屋根は最小限として、控柱の上にそれぞれ小さな屋根を載せたもの。城内側から見ると3つの屋根が見えます。

櫓門・・・門の上部に櫓を載せたもの。二階部分に連子窓や石落としなどを備えた強固なつくりになっています。

枠形門の例（丸亀城） ※丸亀城では枠形の内側の門を一ノ門、外側の門を二ノ門と呼称

高麗門（大手二ノ門）



櫓門（大手一ノ門）



内側



3. 犬山城大手門枡形の概要

①犬山城の縄張り

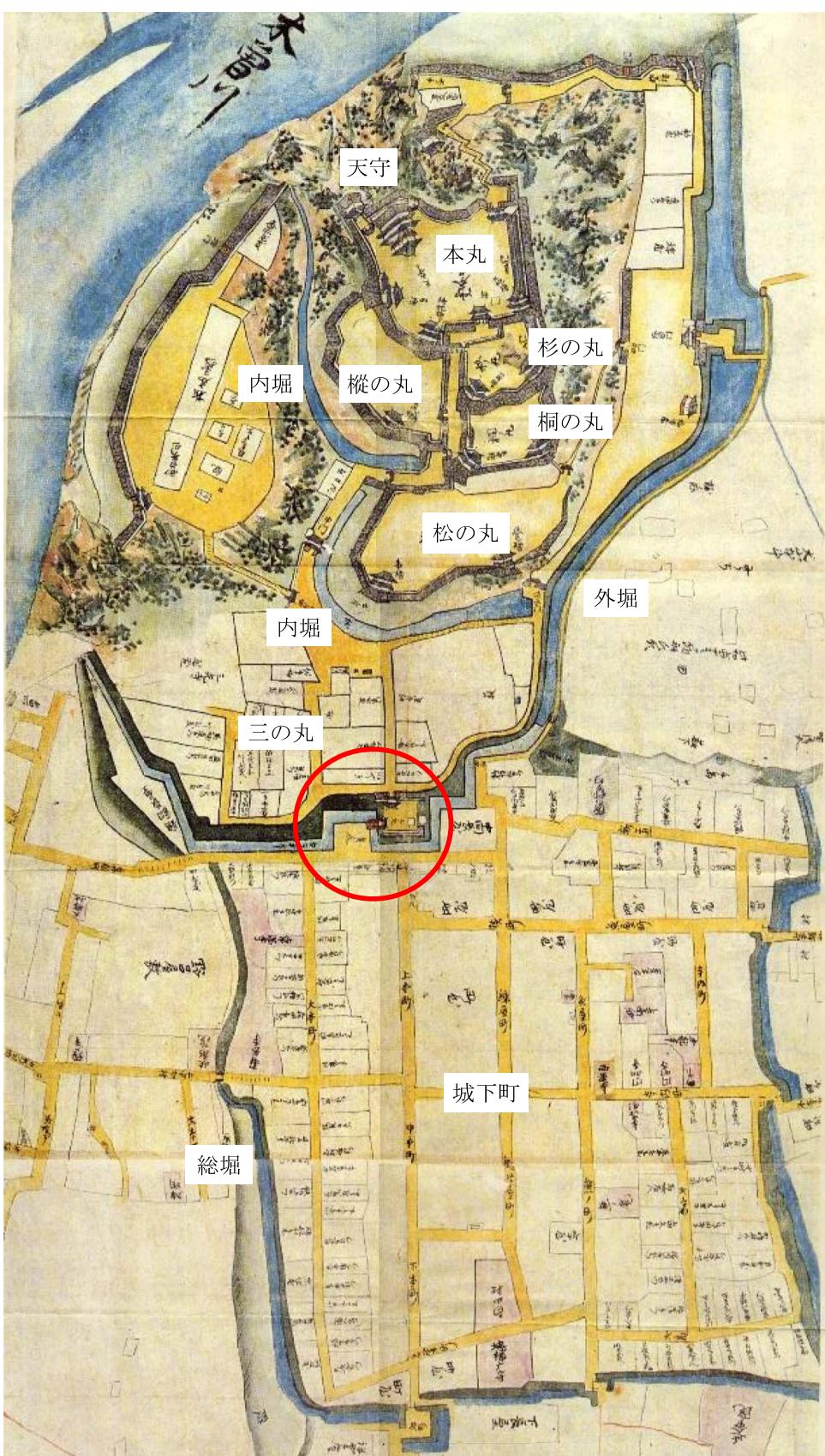
犬山城は、天守のある本丸が北端の一番高い場所に配置されています。本丸から南に向かって大手道がつくられ、大手道の東側に杉の丸、桐の丸、松の丸、西側に樅の丸が配置されました。その南には外堀に囲まれ、御殿や武家屋敷が置かれた三の丸があり、三の丸の南には総構えで守られた城下町がありました。外堀の内側と外側で城内と城外が分けられていました。

②犬山城大手門枡形の構造

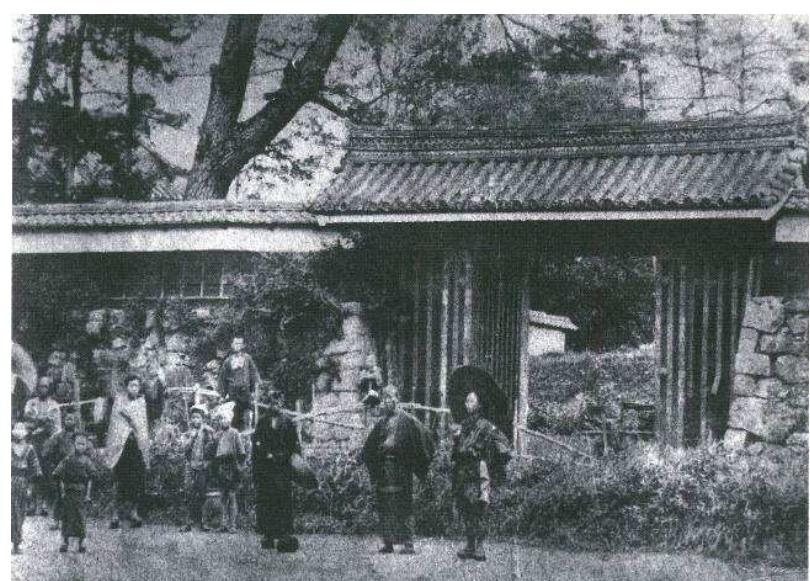
犬山城大手門枡形は三の丸の南端にあり、外枡形になっていました。三方を空堀で囲まれ、土塁になっている東側以外は石垣と土塁が築かれています。西側に大手門（高麗門）、北側に大手二ノ門（櫓門）を配し、枡形内には番所が設けられていました。大手門枡形の西側には、堀を挟んで大手口があり、その間には橋がかけられていました。

③城内へのルート

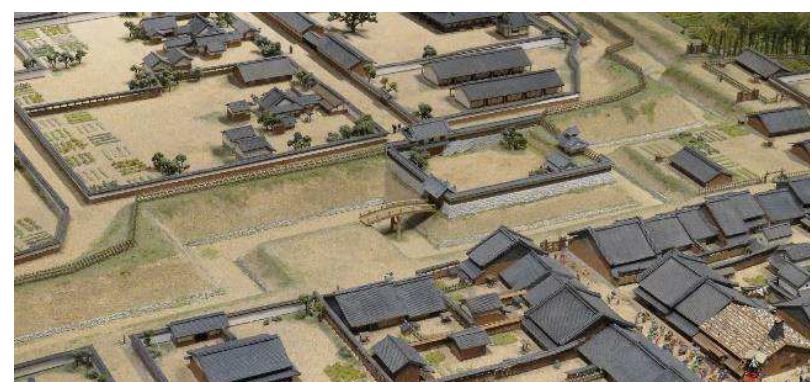
犬山城の城内に入るには、名古屋街道と繋がる城下町のメインストリートである本町通を北進し、外堀に突き当たったところで西に曲がって大手口に入ります。大手口の北東にかけられている橋を渡って大手門から枡形に入り、北に曲がったところにある大手二ノ門を抜けると、ようやく城内に入ることができます。こうすることで、攻めてくる敵を横方向から攻撃することができ、城内への入口の防御性能を高めています。



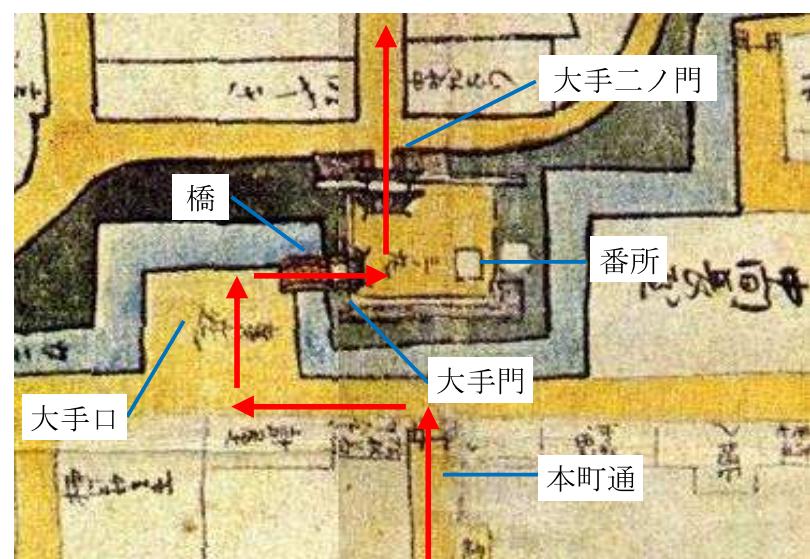
犬山城の縄張りと大手門枡形の位置
犬山城郭絵図[元文5年(1740)犬山市文化史料館蔵]



犬山城大手門古写真（明治初年頃 個人蔵）



文化史料館のジオラマ（大手門枡形周辺）



城内へのルート（左の図を一部拡大）